

週刊 武四郎

第50号

2019年(平成31年)3月20日(水)
発行・松阪市

●毎月第三週は、
松浦武四郎のお友達に
についてご紹介します

監修・松浦武四郎記念館

松浦武四郎伝を 最初に書いた人は……

松浦武四郎さんは今でこそ
〈北海道の名付け親〉として知
られています。明治の頃はあ
まり有名な人ではありません
でした。最初にその伝記を書いた
のも……日本人ではなくて、な
んとアメリカ人だったのです。

その名は、スタール。米国・
シカゴ大学の人類学者です。

一九〇四(明治三七)年のセ
ントルイス万博でアイヌ民族を
紹介しようとして来日し(この万博
では世界の先住民族を集めた。パ
ビリオンが計画されていたの
です)、その調査の中で武四郎
さんの著作を読むうちにすっ
かり魅了されてしまって、そ
の後も来日を重ね、とうとう
『The Old Geographer Matsuura

『Takestino』(老地理学者松浦武
四郎)という評伝を著しまし
た。一九一六(大正五)年、武
四郎さんの没後二十八年目のこ
とです。

さて、このスタール博士、今
も別の世界ではたいへん有名な
人なのです。その名も、〈御札
博士〉。御札というのは……千
社札のことです。よく神社仏閣

のお堂などに貼ってある、アレ
です。千社札に描かれた名前の
ことを題名といって、住んでい
る地名や職業と名前を合体させ
て付けるので、スタール博士の
札には〈米国 寿多有〉とか、
〈御札博士 寿多有〉とありま
す。全国行脚してあっちこっち
の神社仏閣に貼りまわって、仲間
内にも配りまわったので、今も

スタールの札はたくさん残って
います。でも、千社札の愛好家
に、「スタールって松浦武四郎
の伝記を書いたんだよ」と言っ
ると、「えっ、スタールってホン
トに学者だったの?」なんて驚
かれるんですね。スタール博士、
今では明治の頃にやって来た単
なる日本通の〈怪しげな外国人〉
だと思われてしまっているよう
です。世界が違っていると認識もこ
んなに違うんですね。

米國御札博士 有多寿

▶「スタール博士の千社札」(基角堂コレクション)

松浦武四郎 (1818～1888)
三重県松阪市出身。幕末から明治にかけ
ての探検家、著述家、蒐集家。蝦夷地(今
の北海道)を6度にわたり探査し、アイ
ヌの人々と交流を深め、蝦夷地の詳細
な記録や地図を作成した。維新後、蝦夷
地に代わる新たな名称として(北海道)
のもととなる(北加伊道)を含む6案
を政府に提案したことから(北海道の名
付け親)と称される。



文・河治和香 装画・りんたろう 編集・細山田正人 デザイン・DOMDOM

●松浦武四郎を主人公とした小説『がいなもん 松浦武四郎一代』(河治和香著)が、小学館より好評発売中!

